

グローバル・ハイールド債券ファンド (円コース)

追加型投信／海外／債券

第111期 2020年1月15日決算 第112期 2020年1月24日償還
作成対象期間 (2019年12月17日～2020年1月24日)

第112期末 (償還日 2020年1月24日)	
償還価額	6,883円10銭
純資産総額	87百万円
第111期～第112期	
騰落率	△2.4%
分配金合計	10円

*騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- ◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。
- ◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/> にアクセス→
ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 運用報告書についてのお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

このたび「グローバル・ハイールド債券ファンド(円コース)」は、信託約款の規定に基づき、2020年1月24日をもちまして繰上償還いたしました。

当ファンドは、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、世界の企業の発行する高利回り債券(ハイールド債券)を中心に実質的に投資することにより、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

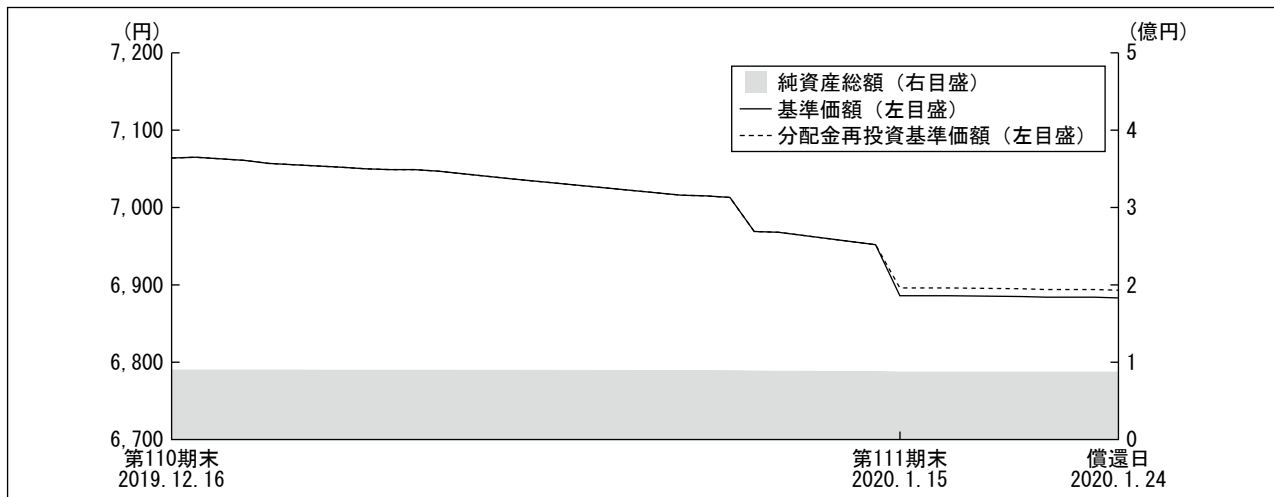


三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
<https://www.smd-am.co.jp>

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

第111期首：7,064円

償還日：6,883円10銭（作成対象期間における期中分配金合計額 10円）

騰落率：△2.4%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド JPY Classへの投資を通じて、世界の企業の発行する高利回り債券（ハイイールド債券）を中心に実質的に投資を行いました。

（下落要因）

通信セクター、循環型消費財セクター、銀行セクターのアンダーウェイトが要因となりました。

【1万口当りの費用明細】

項目	第111期～第112期		項目の概要
	2019年12月17日～2020年1月24日		
	金額	比率	
信託報酬	13円	0.185%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は7,037円です。
（投信会社）	（8）	（0.111）	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	（5）	（0.070）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（0）	（0.003）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
合計	13	0.185	

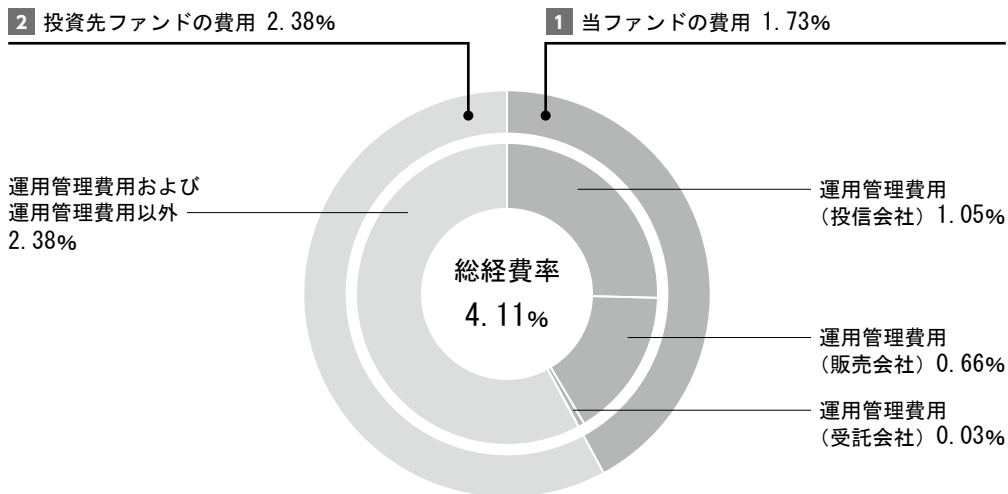
* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

* 円未満は四捨五入しています。

参考情報 総経費率（年率換算）

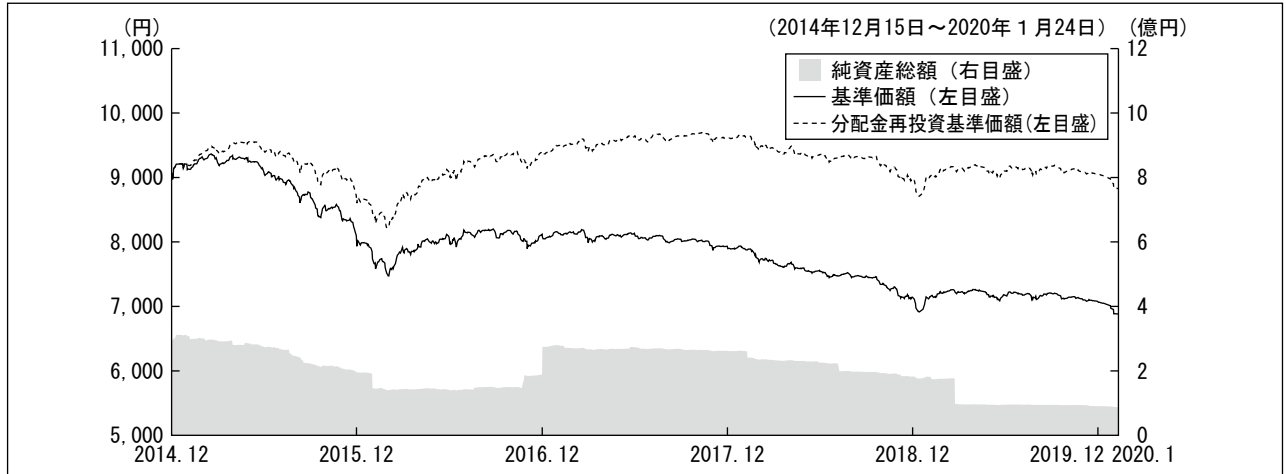


総経費率（1 + 2）	4.11%
1 当ファンドの費用の比率	1.73%
2 投資先ファンドの費用の比率	2.38%

- ***1**の各費用は、前掲「1万口当りの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。「1万口当りの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。
- ***2**の投資先ファンド（当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く））の費用は、運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できないため、まとめて表示しています。また、投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。
- ***1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。
- *上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率換算）は4.11%です。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、2014年12月15日の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2014年12月15日 期初	2015年12月15日 決算日	2016年12月15日 決算日	2017年12月15日 決算日	2018年12月17日 決算日	2019年12月16日 決算日	2020年1月24日 償還日
基準価額 (円)	9,077	7,933	8,076	7,896	7,119	7,064	6,883.10
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	720	560	360	260	120	10
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△5.2	9.2	2.2	△6.7	0.9	△2.4
純資産総額 (百万円)	298	193	275	261	182	90	87

【投資環境】

2019年末のハイイールド債券市場は、米中貿易協議の第一段階の妥結を受け、リスクオン（リスク選好）のセンチメント（市場心理）が大幅に回復する中、好調なパフォーマンスとなりました。懸念材料とされていた発行面については、2017年来の水準であった11月の水準からは減少したものの、12月は2019年の月平均を上回る堅調なものとなりました。結果、年末にかけてスプレッド（国債に対する上乗せ金利）は緩やかなタイト（縮小）化基調をたどりました。年末年始を挟んで中東情勢等地政学リスクの急上昇を受け、一時的にリスクオフ（リスク回避）となるも、戦線拡大リスクの低下が確認されるとスプレッド動向は安定に向かう展開となりました。その後、2020年1月半ば以降は、新型コロナウイルスの感染拡大懸念で急激なリスクオフとなり、スプレッドが大幅拡大する中、当ファンドの償還を迎えました。

国内短期金融市場では、作成期初-0.16%近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、-0.1%~-0.2%のレンジで推移し-0.12%近辺で償還日を迎えました。

【ポートフォリオ】

■グローバル・ハイイールド債券ファンド（円コース）

主要投資対象であるグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド JPY Classを作成期を通じて組み入れました。その後、2020年1月の償還に向けて売却し、2020年1月24日に繰上償還いたしました。

■グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド JPY Class

繰上償還が決定されたことに伴い、組入有価証券等の売却を進めました。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債中心による運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

※設定以来の運用経過につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第111期10円とさせて頂きました。（1万口当り税込み）

なお、第112期につきましては、償還のため、分配は行っておりません。

■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第111期	
	2019年12月17日 ～2020年1月15日	
当期分配金 (円)		10
(対基準価額比率) (%)		0.15
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		10
翌期繰越分配対象額 (円)		131

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

お知らせ

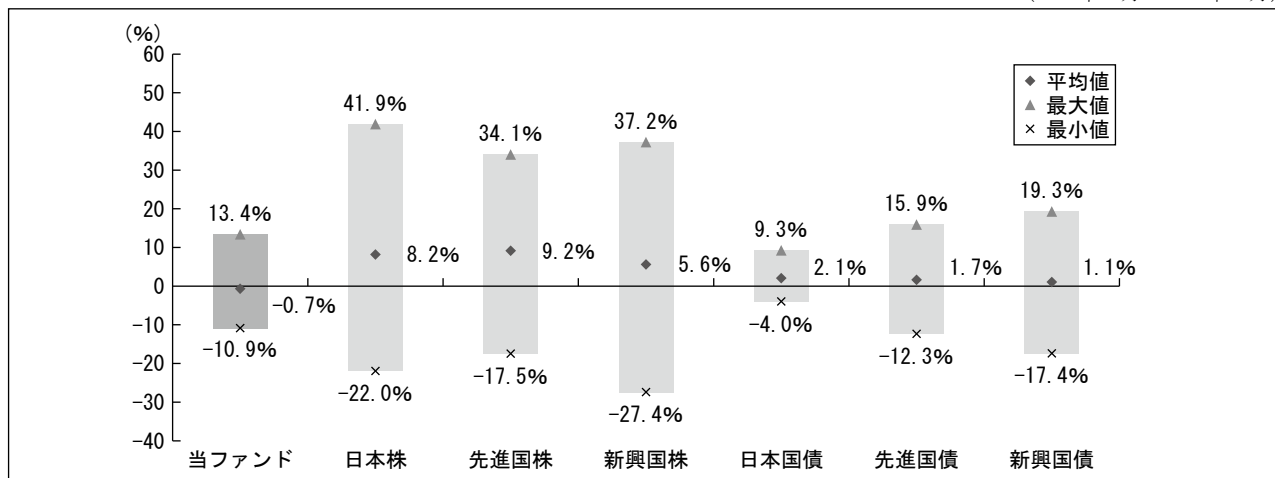
該当事項はございません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2010年9月1日から2020年1月24日（当初、2020年9月15日）までです。	
運用方針	主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、世界の企業の発行する高利回り債券（ハイイールド債券）を中心に実質的に投資することにより、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド JPY Class受益証券 ・キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券
	グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド JPY Class	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のハイイールド債券 ・外国為替予約取引等の活用
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。 ・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド JPY Classへの投資比率は、原則として高位を保ちます。 	
分配方針	<p>毎月15日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

(2015年1月～2019年12月)



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村證券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

〈〈当該投資信託の組入資産の内容〉〉

償還日現在、有価証券等の組み入れはありません。

【純資産等】

項目	第111期末	償還時
	2020年1月15日	2020年1月24日
純資産総額	87,848,169円	87,814,081円
受益権総口数	127,566,923口	127,579,231口
1万口当り基準価額(償還価額)	6,886円	6,883円10銭

* 当作成期間中における追加設定元本額は24,293円、同解約元本額は500,000円です。